

津波から身を守ろう

関連WEBサイト

気象庁 気象警報・注意報
気象庁 大津波警報・津波警報・津波注意報

避難のポイント

小さな揺れでも油断禁物！

小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が襲来することがあります。



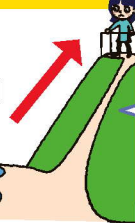
海岸や川には近づかない！

海岸はもちろん、津波は市街地よりも先に川をさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。



高い場所へ避難する

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



率先避難者になりましょう

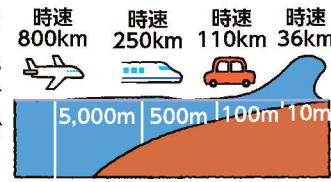
率先避難とは「緊急時に周囲へ避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難すること」を言います。率先避難者になることで、それを見ている周囲の人に避難行動を取らせるきっかけになります。



津波の特徴

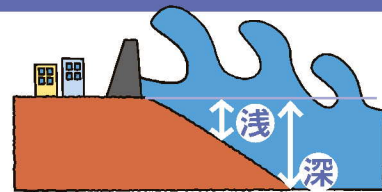
ジェット機並みの速さ

津波の速さは海が深いほど速く、津波が見えてからでは逃げ切ることができません。



想像以上の高さ

津波の高さは海岸の地形等で変わります。東日本大震災では、想像以上の津波が発生しました。



予兆もなく襲ってくる

必ずしも、津波の前に引き潮(予兆)があるとは限りません。



津波は繰り返す

津波は繰り返しくるので、警報や注意報が解除されるまで沿岸部に近づかないでください。



津波注意報・警報・大津波警報

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合は、「大津波警報」、「津波警報」、「津波注意報」、「津波情報」を発表し、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどをお知らせします。

- 各津波予報区の津波到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報
- 各地(主な地点)の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報
- 実際に津波を観測した場合の時刻や高さに関する情報

	発表基準	予想される津波の高さ		想定される被害
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の表現	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	10m超 (10m<高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。
		10m (5m<高さ≤10m)		
		5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	3m (1m<高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで20cm以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれます。養殖いかだが流出し小型船舶が転覆します。

地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が継続する場合には、気象庁が「津波予報(若干の海面変動)」を発表します。

津波ハザードマップ

津波浸水想定区域について

熊本県内の沿岸部を対象に、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される、「浸水する範囲(浸水域)」と「浸水の深さ(浸水深)」を示しています(熊本県作成)。

津波の想定には、3つの断層モデル(雲仙断層群、布田川・日奈久断層帯、南海トラフの巨大地震)を対象に6ケースの津波を想定し、各計算結果の最大値をマップ上に示しています。

なお、計算にあたっては、津波によって堤防などの構造物が破壊される場合を考慮しています。



留意事項

- 最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 「津波浸水想定」の浸水域や浸水深は、避難を中心とした津波防災対策を進めるためのものであり、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないことにご注意ください。

はじめに

日頃から備える

避難について

災害から身を守る

洪水・土砂災害ハザードマップ

役立つ防災知識